

令和7年度 学校評価 丹波市立黒井小学校 パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	<p>「主体的に学び、地域に誇りを持つ、心豊かな子の育成」</p> <p>主体的に人生を切り拓いていくための「学力」を育成するとともに、地域・家庭と協働して、自分たちの地域を愛する 心豊かな児童を育成する。</p> <p>【主体的に学ぶ子】 課題を見つけ学び続ける（自立した学習者）</p> <p>【地域に誇りを持つ子】 人とつながり地域を学ぶ（地域とともにある学校）</p> <p>【心豊かな子】 自他の命や人権を大切に（人権意識の醸成）</p>
本年度の重点目標	<p>(1) 開かれた学校づくり…学校運営協議会を軸に地域の教育資源の活用を進めることや学習課題等を家庭と共有することで学力の向上を図る。</p> <p>(2) 学習指導の充実…「主体的・対話的・深い学び」のための授業改善と学習の個別最適化にむけた学習課題等における家庭学習との接続を大切にする。</p> <p>(3) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別教育の充実…特別な支援が必要な児童をはじめとして、一人ひとりの児童の実態を把握して共通理解を図り、職員全体での支援体制のあり方や児童の変容を共有し、個に応じた支援を充実させる。</p>

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況 (●) と改善の方策 (★)
学校運営	開かれた学校づくり	◇地域の教育資源の活用 (たんばふるさと学) ・地域の持つ教育資源 (人・物・組織等) を学校支援コーディネータとの協働により児童の学習に活用する。	A	●アンケート結果は95%以上が肯定的な回答であった。黒井城祭りやそれに関連する行事では地域の自治振興会、昔遊びでは黒井地区老人クラブを始め、多くの地域人材や施設との協働により学習を進めることができた。児童も黒井地域への関心が高まり、学びを深めることができた。 ★学校支援コーディネーターには地域の持つ教育資源を学校教育につないでいただき、恵まれた環境で学習を進めることができた。来年度は、新しい地域学校協働活動推進員を核に、これまで同様に密に連携して、ふるさとについての学びが一層充実するように推進していく。
		◇学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) の推進 ・学校・地域・家庭・「子どもたちの学びの充実」にむけた協働活動を充実させる。	A	●アンケート結果は98%以上が肯定的な回答であった。見守りボランティア、学校の環境整備 (農園、花壇、草刈り)、PTA では年2回の交通安全教室や人権教室の実施、安全確保の支援活動等、子どもたちの学びの充実にむけた協働活動を行うことができた。 ★今後は、ねらいを明確にし活動を選別したりして、教育課程内でのバランスをとりながら実施していく。
		◇学校情報の発信 ・さくらメールやホームページ等を活用し、学校だより「絆」や学年通信等を発信する。 ・学力学習状況調査や保護者アンケート、学校評価の結果を公表し、教育活動の充実改善につなげる。	B	●アンケート結果は95%以上が肯定的な回答であった。学校だより「絆」をはじめ、学年通信、学校ホームページによって学校の情報を定期的に発信している成果だと考える。 ★今年度と同じように発信をしていく。運動会、音楽会、人権参観日等の保護者アンケート結果について、現在は職員のみで共有しているが、次年度の教育活動の改善につながる部分などは、必要に応じて保護者にも周知していくことも検討していく。
教育課程	学習指導の充実	◇「総合的な学習の時間」を軸とした授業改善 ・「わくわく もっとやってみよう～黒井の地域と繋がる～」を研究テーマに、総合的な学習の時間を中心に、「主体的に学び、地域に誇りを持つ、こころ豊かな子の育成」の実現を目指す。	A	●アンケート結果は、80%以上が肯定的な回答であった。2年間の研究テーマをもとに、「わくわくする」単元づくりに努めたり、学びスリーをもとに本校の課題解決・授業の素地となる学級づくりに努めたりした結果も一因であると考え。昨年度と比較しても保護者の回答がおおむね肯定的になっているのも成果と考える。 ★学びを児童に委ねる機会が増えたことも、児童の肯定的な意見が増えた一因であると考え。今後、主体的に学ぶ姿を他教科にも広げていく。また、学校や家庭学習の取組方の啓発等も通信やHPだけでなく、保護者の方が手に取りやすい方法等を検討していく。
		◇個別最適な学びにむけた支援の充実 ・個別の学習課題を明確化し、個別の課題を家庭学習や朝のスキルタイムに取り組むことで課題解消を目指す。 ・学習の結果のみでなく学習課題の解決に向けた取組経過を認めることで自己肯定感を育み、学び続ける意欲を育てる。	A	●アンケート結果は、90%以上が肯定的な回答であった。児童の実態を教師間で情報交換し、スキルタイム (朝学習) で適切な課題を提示したり、自己選択できる問題を準備したりして、児童の理解度に応じた授業の流れを展開した。 ★低学年時期は、基礎学力の定着を図るため、学校では児童の実態を見取することを重視した上で、繰り返し学習を重視していく。また、家庭と連携して児童の学習習慣の定着を図ったり、つまづきを把握したりして、基礎学力の積み上げを行う。
		◇ICT環境を活用した学習時間の充実 ・一人一台のタブレットPC等を活用し、自ら課題を持ち、調べて、まとめて発信する「情報活用能力」を育成する。	B	●アンケート結果は、概ね肯定的な回答であるが、全体の約10%が否定的な回答であった。2学期より、新タブレットや新しいアプリ (ロイロノート) が導入され、日々の学習で利活用している。しかし、学校全体における共通した取組や交流は進んでおらず、利活用は担任裁量によるところが大きい。それが学年間による差や系統的な指導に結びついていない現状を生んでいると考える。 ★児童の課題をもとに学校全体として、特に力を入れてタブレットPCを活用する学習場面を委員会で検討し、職員全体で共通理解して取り組んでいく。また、新しいアプリ (ロイロノート) の校内における実践交流を行ったり、ICT支援員によるオンライン研修 (自由参加) を活用したりして、教職員一人ひとりの実践力向上を図る。
課題教育	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	◇「教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づく支援の充実 ・特別な支援が必要な児童をはじめとして、一人ひとりの児童の実態を把握して共通理解を図り、職員全体での支援体制のあり方や児童の変容を共有し、個に応じた支援を充実させる。	B	●概ねできている。特別支援教育推進委員会で、児童の情報を共有し、支援の方向性を考え、保護者へのアプローチの仕方までを話し合うことができた。また、支援計画と指導計画を作成することもできた。 ★学校全体で支援計画、指導計画を意識した支援ができるように活動内容を工夫するなど、職員が連携を図り、今後も取り組んでいく。委員会での内容は周知徹底し、担任が相談できる体制を作る。
		◇児童・保護者への啓発活動の実施 ・保護者や地域、在籍児童に対して、本校の取組む特別支援教育について、機会を捉え、繰り返し啓発を行う。	A	●保護者に向けては、入学式、PTA総会、学級懇談会、児童に向けては、年度初め、運動会前、音楽会前、マラソン記録会前の合計7回の啓発を行うことができた。 ★特別な支援が必要な児童の言動などから、機会を逃さず指導をしていく。

	<p>◇関係機関等と連携した支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的環境整備と合理的配慮に基づく支援を行い、学校と保護者、関係機関等で情報を共有し、教育活動の充実を図る。</li> <li>・認定こども園かすが花の子園等の就学前教育機関と連携し、就学前からの相談・支援体制の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進に向け、特別支援教育コーディネーターを窓口として保護者との相談体制の充実を図り、相談内容の校内での共有や関係機関との連携に繋げることができた。</li> <li>★引き続き、保護者が安心して相談できる体制づくりを心掛け、対話を重視した取り組みを進めていく。また、必要に応じ、SC、SSW、通級、教育支援センター、レインボー教室等とも連携を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進していく。</li> <li>●7月と12月に、園小教職員の合同研修会の機会を設定し、架け橋プログラムの構築に向けた取組を推進することができた。特に小学校スタート時における1年間のスタートプログラムの充実・工夫に向けた研修を深めるとともに、特別な支援を必要とする園児の状況についても共通理解を図ることができた。また、就学前の相談体制についても、特別支援教育コーディネーターを窓口として、適切に対応することができた。</li> <li>★次年度入学予定園児を参観する機会の設定や、園小研修会の定期的な開催等により、園から小学校生活へのスムーズな接続に向け、園小の連携をさらに工夫していく。また、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする園児の早期把握に努め、保護者や関係機関等との連携を適切に進めていく。</li> </ul>
--	---	---	---

### 3 学校関係者評価（ ○良かった点 ●改善点 ※改善策等 ）

<p>(1) 開かれた 学校づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○PTAと学校が連携し、よい活動ができたと感じる。</li> <li>○さくらメールを上手く活用し、情報発信に長けていたと感じた。PDFで文章が来るため、管理もしやすい。</li> <li>○「絆」（学校だより）は、地域住民にとって学校情報を知ることのできるすばらしい情報発信である。</li> <li>○保護者アンケートの結果にも表れているとおり、地域とともにある学校づくりが行われていると感じた。</li> <li>●ホームページの更新が学期末に設定されているため、少し発信力が弱いように感じた。また、地域へのダイレクトな発信があれば、さらに良い。</li> <li>●学校支援ボランティア登録者への支援要請が、タイムリーに行えるシステムが、更に機能していく仕組みが整うとよい。</li> </ul> <p>(2) 学習指導の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT環境を活用した学習時間の充実については、児童の中でも活用できている子とできていない子に差がかなりあると思うので、専門的な授業を行ったり外部に委託して授業を行うなどの方法をとることによって、教職員の負担が減るのではないかと。</li> <li>※ICT環境を活用した学習方法や児童につく力は未知数なので、事例の交換や研修は意義深いと思う。</li> </ul> <p>(3) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認定こども園との連携は大変良いと感じた。</li> <li>※今後統合が進んでいく中で、両行の児童が安心して通える学校づくを期待する。</li> </ul>
--

### 4 次年度の改善の方向性

<p>本年度、「自分に自信をもち、地域に誇りをもつ心豊かな子の育成」を学校教育目標に、「自信をもつ・自ら学ぶ子」「課題を見つけ学び続ける子」「地域に誇りを持つ子」を旨とし、黒井小学校運営協議会とも連携し、取組を進めてきた。</p> <p>次年度も、黒井地域の強みである、「豊かな地域教育資源の活用（たんばふるさと学）」や「園小連携の充実」、「地域や保護者との連携」等を活かし、今年度の学校評価の結果や教育反省を踏まえ、学校運営協議会と協働しながら家庭・学校・地域が一体となり、「自分に自信をもち、地域に誇りをもつ心豊かな子の育成」を旨としていきたい。</p> <p style="text-align: right;">令和8年3月13日 丹波市立黒井小学校 校長名 長井 博史</p>
---